

## 英彦山(福岡)上部にバイオトイレ建設に向けたその後の活動状況

太田 勝 (英彦山の環境、トイレを考える協議会)

### はじめに

福岡県には全国的有名な山はない。ただ年間 20 万人が登るといわれる人気の山、福智山 (900m)、英彦山 (1200m)、宝満山 (869m) がある。この千メートル前後の 3 山は、それぞれ修験道の拠点として崇拜され、また異なった山容趣は我われ登山愛好家の自慢の山でもある。この中で英彦山は、福岡県、大分県に聳える北九州の最高峰でかつて修験道の拠点として日本三大霊山と称され、山岳宗教のメッカとして名をはせたと言われている。また、英彦山の自然は変化に富み、数多くの名勝史跡有する同山域は昭和 25 年「耶馬・日田・英彦山国定公園」に指定されている。英彦山には年間 20 万人以上が登山や植物、野鳥の観察などを楽しみ、保健、教育、休養などに大きな役割を果たしている。

### 新たな課題の出現による着工の遅れ

昨年の「第 14 回山のトイレを考えるフォーラム」資料集へ「英彦山上部にバイオトイレ建設に向けての活動」としての状況を投稿させていただいた。

トイレ建設を推進する我われは、これまでにトイレ建設を進めるにあたり必要な課題を一つ一つ解決し、外的な問題点はほぼ整ったものと考えていた。

しかし、その後更なる課題が発生した。トイレ完成は 25 年 10 月頃と予想していたが、現状は半年遅れとなっている。

このトイレ建設着工が遅れた理由の一つに、かつて日本三大修験道場として栄えた英彦山を国指定の史跡文化財とするため地元の添田町が継続、準備を行っていた。ところが、福岡県文化財課より山頂付近に新規の建物建設 (トイレ建設) は史跡を壊すことになり認められないとの見解によるクレームがでた。しかしその後、関係機関によって現地調査、意見調整により、現在山頂にある休憩所 (県所有) の一部をトイレに改築するという事で、この件は決着した。

ただ一部の団体から休憩所が狭くなる、臭いがするのではないかな等の反対意見がだされた。しかしトイレ建設を軌道にのせるには文化財指定の関係もあり、同休憩所を利用する以外になく、反対意見を寄せられた団体には、今後同意が得られるようさらに説得努力していかなければならないと考えているところである。

工事着工遅れのもう一つは、県が発注するバイオトイレメーカー、企業決定に際して問題が生じたことである。

今回県が発注に際して行ったのは一般競争入札による企業決定であった。一回目の入札において落札した某コンサルタント会社はバイオトイレに携わった経験が乏しく、またこの設計を大分県のメーカーへ依頼したものの英彦山に設置するバイオトイレの条件に適合する設計図ではなかったようである。

特殊な機能を有するバイオトイレ設置に際し、メーカー、企業を決定する県の発注制度に対し、私どもは単純に疑問を感じざるをえない。(私どもの浅き知識からの見解だろうが)

車道無し、電気無しの山中にトイレを建設するとなれば、環境にやさしく、利用者にも喜ばれるバイオトイレ建設は当然の要求だろう。

設置場所の環境状況を考慮し、これに対応できる機種機能の信頼性、実績、評価、またトラブル発生時の対応と迅速性等をメーカーや施工業者決定に際しては十分吟味することは当然であろう。

現在、福智山と宝満山に設置されているバイオトイレのメーカーは異なるものの機能はほぼ同様な太陽光ソーラパネルに電力を確保し（バッテリーにも蓄電）便槽であるドラム内を一定の温度に保つと共にドラム内チップに生息するバイオ菌の働きにより便を分解するというシステムである。（この機能の詳しい説明不足についてはご了承願いたい）

英彦山は標高 1200m、特に冬期はマイナス 10 度以下の気温になることは当然である。電力は太陽光ソーラのみで安定した電力が確保できるか、日照時間の短い冬期に多少不安ものところであるが正常なる稼働を期待している。

2013年(平成25年)7月17日 水曜日

西日本新聞



トイレが整備される英彦山中岳の休憩所  
福岡県添田町

# 英彦山山頂にトイレ

## 「神域」にも環境保護の波

かつて日本三大修験道場として栄え、現在は多くの登山客が訪れる英彦山中岳(福岡県添田町)の山頂に公衆トイレが設置される。古くから山頂一帯はつばも吐いてはいけない神域(英彦山神宮)とされてきたが、環境悪化を防ぐため、福岡県が来年3月までの整備を決めた。中岳の標高は1188m。完成すれば「県内で最も高い場所にある公衆トイレ(同県)になりそうだ。【26面に関連記事】

### 福岡県、年度内に整備

添田町によると、英彦山の登山客は年間約20万人。多くの登山客は年間約20万人。自然愛好家のグループなど。多くは中腹にある英彦山神宮(幣殿)から山頂まで片道約1時間半の登山道を利用するが、途中にもトイレはなく、野外で用を足す人もいる。山頂付近はけがが多く、人目を避けるために茂みに入った際に滑り落ちる人もあるという。

このため地元住民や自然愛好家のグループなど、英彦山に登るといふ松村栄治さん(65)は「頂上付近の野外で用を足す人がいたので、トイレを整備する必要がある」と訴えている。市は「頂上付近の野外で用を足す人がいたので、トイレを整備する必要がある」と訴えている。市は「頂上付近の野外で用を足す人がいたので、トイレを整備する必要がある」と訴えている。

福岡県は、今年度内に英彦山山頂に「上宮」がある英彦山神宮の高千穂秀敏宮司は「信仰の山としてトイレ建設に反対。ただ、今は観光中心の山になっており、環境

と、公衆トイレは微生物(和田剛、中川博之)

が排せつ物を分解し、くみ取りが必要ないバイオトイレとなる予定。微生物を入れた木材チップをかき混ぜたり保温したりする電源確保のため、屋根に太陽光発電のパネルも取り付ける。

我われの乏しい知識ではあるが、現在福智山に設置されているバイオトイレは最も有効な機能を有するものと考えている。このバイオトイレメーカーは英彦山の北西約 20 キロの飯塚市に拠点を置く A 社で、例えトラブルが発生しても即対応が出来るという実績、さらに総合的観点からも優れていると考えている。ただ県と数回にわたる意見交換の場で我われが望むメーカー名は口頭には出さなかった。しかしその後、県の指名入札また随意契約であったのか定かではないが私共の意図していた A 社がトイレ建設を施工することに決定したのである。

### 山岳環境保全と登山活動は未来に向けた両輪のテーマ

英彦山にバイオトイレを建設に当たって、この前提条件となったことは、トイレ完成後の長期にわたる管理清掃等の業務体制の確立であった。

トイレ建設は福岡県が行うにしても、管理においては地元添田町が担うのであるが、実際の管理業務はさらに何れかの団体か個人へ町が委託するわけで、これは行政の常である。

話しは少しさかのぼるが、英彦山は国定公園の一部になり、九州自然歩道も通じている。このような関係から県は 10 年程前より英彦山上部にトイレ設置計画、添田町へこの意志を伝え、地元関係者の同意を得るための努力を行ってきた。しかし英彦山上部は神域として神司総代会、霊峰会等からの同意が得られずに苦慮し数年が経過したようである。この頃に英彦山上部にトイレが必要ではないかとの意見交換の場が持たれたのである。当初は上説の通り同意が得られない場があったものの一部地元の行政区長、観光協会長は是非トイレを造って欲しいとの賛成意見もあり、意を強くしたものである。

話しは前記したトイレ完成後の管理業務であるが、「英彦山環境、トイレを考える協議会」へこの業務委託が廻ってきたのは当然の成り行きかもしれない。このトイレ管理に 7 団体が協力の同意を示していただいているが、さらなる協力団体の体制強化が重要であると考えている。

私は「山のトイレ環境を考える協議会」という登山、環境に係わる活動を行い、この役員も勤めさせていただいている。

このようなことから英彦山のトイレ問題に携わることになった。

上記の通り福智山、宝満山にはバイオトイレが稼働、英彦山にはこの 5 月完成を見込んでおり、福岡の三大人気の山すべてにバイオトイレが設置されることになる。

ただ福岡の山岳環境はこれで問題がなくなったということではない。30 年ほど前から中高年層、最近では若者、さらに海外からの登山者も増加してきている。ただ東南アジア方面の登山者はお国柄もあろうがゴミのポイ捨てが多く、この指導面の改善が欲しい。山域においてはオーバーユースの問題指摘もあるが、人為的行為から自然の報復を受けるような事態に落ちいるのは絶対に避けなければならない。

山岳自然に親しみ思索する我われは自然環境保全へ可能な限り努力し、この活動を地道に一步でも二歩でも前に進めることが大切なことであると思う。